

# 令和4年度 館林市立第二中学校 学校評価一覧表(第2回)

R5.1.31現在

※表中およびグラフ中の数値の単位は「%」 表中の数値は「とてもそう思う」「そう思う」の合計

評価対象	評価項目	具体的数値項目	保護者	生徒	自己評価	グラフは左から「とてもそう思う」「そう思う」「あまりそう思わない」「そう思わない」	改善策
I 保護者等との連携	学校は、連絡や生徒の様子等を保護者にきめ細かく伝え、理解を得ている。	○学校や生徒の様子が分かると感じている保護者が80%以上。	84.5	/	A		○配信アプリHome & Schoolを適宜活用しながら、情報提供を行い、学校と家庭との情報共有を図っていきます。また、今後もウェブページの更新を積極的に行い、最新の子ども達の様子や学校の情報が家庭に伝わるようにしていきます。
	学校は保護者が連絡や相談をしやすいと感じる雰囲気づくりに努めている。	○学校は連絡や相談がしやすいと感じている保護者が80%以上。	87.6		A		○今後も様々な手立てで子ども達一人一人の日々の様子を家庭に丁寧に伝え、家庭と連携して子どものさらなる成長を見守っていける体制にしていきます。
II 確かな学力	学校は、生徒が分かり、満足感や達成感を味わえる授業づくりを行っている。	○授業が分かると感じている生徒が80%以上。	71.3	89.4	A		○各単元で身に付けさせたい能力を生徒に明確に示し、学習意欲を向上させていきます。引き続き、管理職や教務主任、研修主任、学力向上担当が定期的に授業を参観し、助言を行うとともに、教科部会、研修部会等を開くことで、授業力の改善を図ります。
		○授業が楽しいと感じている生徒が80%以上。			A		
	学校は、生徒が授業をよりよく理解することができるように、ICTを効果的に活用した学習をしている。	○タブレットを使用することによって、「授業がわかりやすくなった」と答えた生徒が80%以上。	1年 87.0 2年 92.3 3年 91.4	A		○校内研修を通じて、引き続き実践事例を共有していきます。その中で、授業のめあてを達成させるために効果的なICTの活用方法について、教科を越えて共有していきます。 ○生徒自身がICTを活用しながら学習課題を解決することができるように、さまざまな形でアプローチしていきます。	
	学校は、生徒に家庭学習の習慣が身に付くよう適切に指導している。	○家庭学習（塾等を含める）をしていると答えた生徒が80%以上。	64.3	69.2	B		○個々の生徒への最適な学びを提供するために、一斉以外の課題を各担当に引き続き積極的に提案し、内容も精査していきます。状況を見極めながら、家庭での学習をICTを活用し、個々に応じた学習になるよう充実させます。
III 豊かな心	学校は、生徒が自分から進んであいさつができるよう適切に指導している。	○自分から進んでしっかりとしたあいさつができる生徒が80%以上。	87.5	85	A		○気持ちのよいあいさつが継続できるように引き続き、教師から率先垂範し、元気に爽やかなあいさつ、声かけに日々取り組んでいきます。
	学校は、いじめのない学校づくりを推進している。	○学校生活が楽しいと感じている生徒が80%以上。	89.9	91.3	A		○様々な行事や日常生活において、生徒主体の活動を実施したことで、自己有用感を感じた生徒が増えました。今後も生徒が自主的、積極的に活動し、達成感や自己有用感を味わえるよう行事や活動を企画していきます。
		○学校のいじめへの対応や対策が十分であると思う生徒・保護者が80%以上。	87.3	81.6	A		○生徒会を中心に、生徒主体のいじめ防止の活動に取り組み、人間関係作りを丁寧に行っていきます。 ○道徳や学級活動などを通して、いじめについて考える場を設けて、いじめは許されない行為だということを今後も継続して指導していきます。
				○いじめの早期発見・早期対応を全職員で心がけ、報告・連絡・相談を欠かさずに行い、学校全体として生徒、保護者に寄り添う指導をします。			
		○ケータイ、スマホ、ゲーム機等を毎日、午後9時以降学習以外で使っていない生徒が80%以上。	31.9	19.7	E		○ノーメディアデーの実施と、メディアコントロールの習慣付けを、近隣の小学校とも連携を取り、中学校区として使い方の指導と家庭でのルール作りの呼びかけを行っていきます。
	学校は、生徒が自己有用感を高めることのできるような支援を適宜行っている。	○学校生活において自分の役割果たし、みんなから認められるような自己有用感をもっている生徒が80%以上。	/	75.8	B		○年度が変わっても、新しい仲間と早期に良好な人間関係が築けるように生徒の活躍の場をつくり、さらに生徒一人一人に目を向けて自己有用感を高められるよう支援していきます。

IV	活動の意欲	学校は、生徒が行事や部活動に対して、主体的に活動できるよう工夫している。	○行事(JO,合唱コンクール等)や部活動に積極的かつ向上心をもって参加している <b>生徒が80%以上</b> 。	90.4	93.7	A	<p>生徒</p> <p>56 38 5</p>	○感染症の状況を考慮しながら、内容を変更しながら例年通りの学校行事を行うことができました。合唱コンクールや持久走大会では、学級や個人の目標に向かって積極的に取り組む生徒が多くみられました。
		学校は、生徒が協力して清掃や係、当番活動に取り組むよう努めている。	○清掃や係、当番活動に友達と協力して進んで取り組んでいる <b>生徒が80%以上</b> 。	90.4	A	<p>生徒</p> <p>35 55 10</p>	○日常の清掃活動に加え、美化委員会が主体となった「清掃週間」を企画し、校内美化に努めました。 ○校外のボランティア活動は、今年度も感染症拡大防止の観点から中止しましたが、青少年赤十字委員会が主体となって校内での募金活動を行いました。今後も情勢を見ながら計画していきます。	
						<p>生徒</p> <p>34 53 11</p>		
V	健康・体力	学校は、生徒が毎日朝食や適切な睡眠をとって登校できるよう具体的な働きかけを行っている。	○毎日必ず朝食をとっている <b>生徒が80%以上</b> 。	90.4	91.3	A	<p>生徒</p> <p>72 19 5</p>	○朝食の有無だけでなく、生活習慣を見直していくことを担任を中心に指導してきました。生徒連絡アプリの活用により、生徒の状態をより的確に把握することができたため、90%の達成ができたのだと考えられます。一方で10%の生徒が朝食をとらない現状があるため、継続した指導を心がけていきます。
		学校は、進んで体力の向上を図ろうとする生徒の育成に努めている。	○日常的に進んで自分の体力を向上させようとしている <b>生徒が80%以上</b> 。	83.9	A	<p>生徒</p> <p>45 37 13</p>	○入眠時間の遅さは本校の課題であると認識しています。生徒指導部と連携してノーマディアデーを設けたり、保健委員が睡眠と視力の関係について周知する活動をしたりしました。睡眠が与える影響の大きさを引き続き伝え続け、心も身体も健康を自分の力で保てる生徒を育てていきます。	
						<p>生徒</p> <p>45 39 13</p>		
VI	安全確保	学校は、交通事故防止、火災・地震・不審者対策など、安全教育の徹底を図っている。	○交通ルールを守り、ヘルメットをかぶって登下校している <b>生徒が100%</b> 。	98.8	99	B	<p>生徒</p> <p>81 18 0</p>	○ヘルメットについては登下校時は全生徒が着用している姿が見取れます。大きな交通事故もなかった。今後は、私用の着用も徹底していきます。 ○生徒による点検を実施し、それをもとに施設の改善・修繕を行うことができました。引き続き、生徒ならではの視点を活かし、校内安全の向上に努めます。
		学校は、家庭や地域と連携して、交通安全指導や通学路の点検・パトロールを適切に行っている。	○自分の通学路の事故等が起こりそうな危険箇所を知っている <b>生徒が80%以上</b> 。	88.9	A	<p>生徒</p> <p>42 47 9</p>	○避難の練習をするだけでなく、火災発生時のポイントをクイズ形式で確認するなど、防災に対するシミュレーションを実施しました。機をみて、防災、減災の意識を高められるよう、工夫しながら指導を行っています。	
						<p>生徒</p> <p>33 43 16 7</p>		
学校は、家庭や地域と連携して、交通安全指導や通学路の点検・パトロールを適切に行っている。	○学校の登下校の安全指導が適切であると感じている <b>保護者が80%以上</b> 。	97.6	A	<p>保護者</p> <p>39 59 2</p>	○交通ルールの周知徹底を随時行っていき、生徒の安全意識が高められるようにしていきます。安全指導は、教師と保護者の連携が大切であり、今後も安全指導を行うとともに、保護者の理解と協力を得られるようにしていきます。			
VII	進路・生き方	学校は、生徒の主体的な進路決定に向けて、夢や希望を大きくむキャリア教育の充実を図っている。	○自分の将来への夢や希望をもっている <b>生徒が80%以上</b> 。	69.2	74	B	<p>生徒</p> <p>35 39 19 7</p>	○コロナ禍で職場見学や職場体験など、自分の将来について考えるための体験的行事が中止となりましたが、職場体験の代替行事としてオンライン等により講師を招聘した出前授業を実施しました。道徳や学級活動の授業を通して、将来への夢や希望を育めるようにしていきます。
		学校は、生徒の主体的な進路決定に向けて、夢や希望を大きくむキャリア教育の充実を図っている。	○親子で進路について話し合う機会を定期的に設けている <b>家庭が80%以上</b> 。	85.7	78.4	A	<p>保護者</p> <p>34 52 14 0</p>	○今後も進路だより等を通して、親子で進路について話し合うきっかけの場を設けていきます。また、家庭で話し合った内容を学級や学年で共有することによって、生徒がさまざまな考えに触れることができるようにしていきます。